

水のありがたさに気づいた体験

国分寺市立第三中学校

一年C組 高瀬 はんか

私たちは、毎日のように水道の水を使っています。飲み水として飲むのはもちろん、料理やお風呂、トイレ、洗濯、掃除、洗顔など、生活のあらゆる場面で水は欠かせない存在です。水道の蛇口をひねれば、いつもきれいな水が出てくるのは当たり前のように思えますが、実は、とてもありがたいことなのだ、と、四年生のときにやった体験を通して気づきました。

四年生の時、学校の授業で「水」について調べる活動をした時に、日本の一人当たりの一日の水の使用量が約二百二十リットルから三百リットルにもなることを知って、私はとても驚きました。私たちが普段何気なく使っている水の量がこんなにも多いなんて思ってもいませんでした。さらに、日本全体で一年間に使われる水の量は、約百十八億立方メートル

トルと推定されていて、これがどれほどの大
きさなのか想像もつきませんでした。

では、もしも水が使えなくなっ
てしまったらどうなるのでしょうか。水がなければ、飲
むことも料理をすることもできません。お風
呂やトイレ、掃除や洗濯など、普段当たり前
に行っていることが全てできなくなります。
それだけでなく、人間の体の中に入っている
水分が、二パーセント失われるだけで、運動
能力が低下すると言われています。さらに

体内の水分が十パーセント以上失われると、
命に関わるような危険な状態になっ
てしまうそうです。このことから、水は私
たちが生きていく上で絶対に欠か
せないものだとして、改めて実感
しました。

そんな大切な水が、どのようにして作られ
私たちの元に届いているのかを知るために、
私は学校の活動で水道場の見学に行きました。
その中でも、特に印象に残ったのが、ろ過体
験です。これは、汚れた水をきれいにする

体験で、ペットボトルを使って実際にろ過の仕組みを学びました。まず、ペットボトルを上の部分で切り、逆さまにしてじょうごのような形にします。そこにかいせをセットし、その上から砂利、砂、活性炭の順にろ材を重ねて入れます。かいは水がにこったまま出てこないようにするためのもので、活性炭は細かい汚れや匂いを取ってくれる働きがあります。ろ材をしかりと入れたら、泥を混ぜた汚れた水を上から注ぎます。しばらくすると、下の方から少しずつ透明な水が出てきました。けれども三十分ほどかけてできた水の量は、ペットボトル一本分にも満たないくらいでした。私たちが一日に使う水の量から考えると、こんなにかかる時間も、ほんのわずかしかな作れないのだという事に気づき、水のありがたさを深く感じました。

今回の見学や体験を通して、私たちが毎日安心して飲める水や使っている水は、たくさんの手間や時間をかけて作られているという

ことが分かりました。そして、その水がどれだけ大切なものなのか、ということもよくわかりました。これから、水は当たり前だと思わずに、大切に使うことが必要だと感じています。例えば、歯を磨く時に水を出しっぱなしにしない、シャワーの時間を短くする、ちょっとした工夫で水を無駄にせず済みます。これからも、水の大切さを忘れず、日々の生活の中でできることから節水を心がけていきたいです。